

淺田 正博教授 略歴

生年月日 昭和二〇年一〇月二五日

本籍地 大阪府堺市東区草尾一一七四

現住所 京都市伏見区深草車阪町一番地七九

昭和四二年	四月	二一歳	龍谷大学文学部仏教学科入学
昭和四六年	三月	二五歳	龍谷大学文学部仏教学科卒業
昭和四六年	四月		龍谷大学大学院文学研究科修士課程仏教学専攻入学
昭和四八年	三月	二七歳	龍谷大学大学院文学研究科修士課程仏教学専攻終了
昭和四八年	四月		龍谷大学大学院文学研究科博士課程仏教学専攻入学
昭和五二年	四月	三二歳	叡山学院講師（昭和六一年三月まで）
昭和五三年	三月	三三歳	龍谷大学大学院博士課程文学研究科仏教学単位取得満期退学
昭和五三年	四月		龍谷大学文学部非常勤講師
昭和五五年	四月	三四歳	龍谷大学短期大学部非常勤講師
昭和五八年	四月	三七歳	龍谷大学短期大学部専任講師
昭和六〇年	四月	三九歳	龍谷大学短期大学部助教
昭和六〇年	四月		仏教大学通信教育非常勤講師（昭和六一年三月まで）

昭和六一年	九月	四〇歳	中央仏教学院通信教育部講師
昭和六三年	四月	四二歳	京都橘女子大学非常勤講師（平成七年三月まで）
平成元年	四月	四三歳	大倉精神文化研究所研究員（平成一三年三月まで）
平成二年	四月	四四歳	京都精華大学非常勤講師（平成五年三月まで）
平成三年	四月	四五歳	龍谷大学短期大学部教授
平成四年	三月	四六歳	中央仏教学院学校教育部講師
平成七年	四月	四九歳	龍谷大学短期大学部部长（平成九年三月まで）
平成九年	一月	五一歳	本願寺派司教
平成九年	四月		龍谷大学文学部教授
平成九年	四月		行信教校講師（平成一二年三月まで）
平成九年	四月		大谷大学大学院文学研究科兼任講師
平成一三年	四月	五五歳	放送大学講師（非常勤）（平成一四年三月まで）
平成一四年	四月	五六歳	宗学院別科講師（平成一八年三月まで）
平成一五年	六月	五七歳	博士（文学）龍谷大学
平成一七年	四月	五九歳	本願寺派勸学
平成一七年	四月		相愛大学非常勤講師（平成一九年三月まで）
平成一八年	四月	六〇歳	龍谷大学宗教部長（平成二〇年三月まで）
平成一九年	四月	六一歳	宗学院本科講師
平成二〇年	四月	六二歳	九州龍谷短期大学非常勤講師（平成二一年三月まで）

平成二二年 四月 六三歳 本願寺派勸学寮員

平成二二年 四月 龍谷大学仏教文化研究所所長（平成二二年三月まで）

平成二六年 三月 六八歳 龍谷大学教授定年退職

平成二六年 四月 龍谷大学名誉教授

平成二六年 四月 龍谷大学研究フェロ

褒賞

昭和五七年 十月 日本印度学仏教学会賞

所属学会

日本印度学仏教学会、日本仏教学会、龍谷仏教学会、真宗連合学会、

密教図像学会、天台学会、叡山学会、仏教史学会 ほか

社会的活動

平成一四年四月～平成二四年三月 真宗連合学会理事

平成一八年四月～平成二四年三月 日本印度学仏教学会理事

平成一九年四月～平成二四年三月 日本仏教学会常務理事

平成二五年五月～平成二六年四月 龍谷仏教学会会長

浅田正博教授 主要業績目録

(著書)

- | | | | |
|----|-----------------------------------|----------------|----------|
| 1 | 仏教 (テキスト) (共著) | 中央仏教学院 | 平成 四年 七月 |
| 2 | 道歌 心の姿見 (共著) | 大倉精神文化研究所 | 平成一〇年 三月 |
| 3 | 存覚上人書写本 末法灯明記講読 | 永田文昌堂 | 平成一一年 七月 |
| 4 | 道歌 心の写し絵 (共著) | 大倉精神文化研究所 | 平成一二年 三月 |
| 5 | 仏教から見た修験の世界 『修験三十三通記』を読む | 国書刊行会 | 平成一二年 五月 |
| 6 | 七高僧傍訳全書 第三卷 (共著) | 四季社 | 平成一三年 五月 |
| 7 | 天台四教儀講述 | 浅田研究室 | 平成一五年 七月 |
| 8 | 往生要集講述 | 永田文昌堂 | 平成二〇年 七月 |
| 9 | 『釈尊の教えとその展開』 中国・日本編 (共著) | 勸学寮編 | 平成二一年 五月 |
| 10 | 『伝教大師の心をたずねて』 『近江の文化と傳統』 所収 | 編集委員会・高橋正隆ほか6名 | 平成二二年 六月 |
| 11 | 『親鸞聖人と比叡山の修行』 『親鸞聖人伝』 所収 | 中央仏教学院編 | 平成二三年 七月 |
| 12 | 『親鸞が学んだ比叡山における念仏の伝承』 『釈尊と親鸞』 所収 | 龍谷ミュージアム編・法藏館 | 平成二三年 四月 |
| 13 | 『日本天台の教学論争』 『天台』 (共著) 所収 | 自照社出版 | 平成二四年 三月 |
| 14 | 『往生要集における臨終来迎』 『極楽へのいざない』 (共著) 所収 | 龍谷ミュージアム編 | 平成二五年 九月 |
| 15 | 戒律を知るための小辞典 (編著) | 永田文昌堂 | 平成二六年 三月 |

(學術論文)

- 1 『別伝』を中心とする一・二の問題 (共著) Dhammadipa 11-1 昭和四六年 七月
- 2 最澄の延暦二十一年天台開宗説について—大須本僧綱補任を中心に— 印度学仏教学研究 二二—一 昭和四八年一二月
- 3 関口博士の五時八教廃棄論への疑義 印度学仏教学研究 二二—二 昭和五〇年 三月
- 4 徳一の『中辺義鏡』撰述意図 —最澄の『一乗義集』への反論か— 仏教学研究 三二 昭和五〇年一二月
- 5 伝教大師と天台八教大意 印度学仏教学研究 二四—一 昭和五〇年一二月
- 6 徳一教学への疑義 —『止観論』を中心として— 印度学仏教学研究 二五—二 昭和五二年 三月
- 7 『守護国界章』における止観—特に徳一の『止観論』を中心として— 『仏教の実践原理』 昭和五二年一二月
- 8 『次第禅門』における前方便思想の伝承と展開 仏教学研究 三四 昭和五三年 三月
- 9 宝地房証真における天台教判の理解 仏教文化研究所紀要 一七 昭和五三年 九月
- 10 南都六宗と東大寺 印度学仏教学研究 二七—一 昭和五三年一二月
- 11 『一乗要決』の引文態度より見たる源信の最澄観 宗学院論集 四九 昭和五四年 三月
- 12 横善院宥雅について —聖護院調査中間報告— 印度学仏教学研究 二八—二 昭和五五年 三月
- 13 最澄における後期宗観念の成立について 叡山学院研究紀要 三三 昭和五五年一〇月
- 14 伝教大師最澄の往生思想について —籠山発願文を中心として— 真宗研究 二五 昭和五六年 三月
- 15 『通六九証破比量文』の撰述年時について 印度学仏教学研究 二九—二 昭和五六年 三月

- 16 奈良朝仏教における宗観念について — 最澄の前期宗観念への導入として —
龍谷大学大学院紀要二 昭和五六年 三月
- 17 教行信証における天台教判用語の依用について
宗学院論集 五三 昭和五七年一〇月
- 18 聖護院所蔵『山門雜記』三卷の原本検出について — 宝地房証真の真筆本を含む —
叡山学院研究紀要 五 昭和五七年一〇月
- 19 臨濟宗における得度儀規の源流 — 万安本の検出を通して —
仏教文化研究所紀要 二二 昭和五七年一月
- 20 宝地房証真の真蹟本の発見 — 聖護院所蔵『山門雜記』をめぐって —
印度学仏教学研究 三一—二 昭和五八年 三月
- 21 往生要集講読(一)
真宗公論 二一 昭和五八年 四月
- 22 『教行信証』における『法華経』不引の理由
印度学仏教学研究 三二—二 昭和五九年 三月
- 23 円珍真筆本の発見 — 聖護院所蔵『三部曼荼』について —
龍谷大学論集 四二—四 昭和五九年 五月
- 24 伝教大師最澄における円機已熟思想の検討
日本仏教学会年報 四九 昭和五九年 三月
- 25 聖護院所蔵・敬彦説『台学專注』の検出について — 『五時八教廢棄論』との関連において —
叡山学院研究紀要 七 昭和五九年一月
- 26 往生要集講読(二)
真宗公論 二二・二三合 昭和六〇年 一月
- 27 『法華秀句』中巻別撰説について — 『守護国界章』との関連において —
仏教学研究 四一 昭和六〇年 四月

- 28 親鸞聖人と『往生要集』 龍谷教学 二二 昭和六一年 二月
- 29 石山寺所蔵『一乗仏性究竟論』巻第一・巻第二の検出について 龍谷大学論集 四二九 昭和六一年 二月
- 30 法宝撰『一乗仏性究竟論』巻第四・巻第五の両巻について 仏教文化研究所紀要 二五五 昭和六一年 一〇月
- 31 『一乗仏性究竟論』の共同研究 印度学仏教学研究 三五二―二 昭和六二年 三月
- 32 『一乗仏性慧日抄』における『一乗仏性究竟論』の影響 ―特に『一乗章』の引用を通して―(共著) 仏教学研究 四三二 昭和六二年 六月
- 33 親鸞聖人の『往生要集』観 『往生要集研究』 昭和六二年 八月
- 34 『守護国界章』と『法華秀句』との関連性における疑義 ―特に「七教二理」と「十教二理」をとおして― 仏教文化研究所紀要 二六六 昭和六二年 二月
- 35 親鸞聖人と源信和尚 『真宗重宝聚英』第八卷 昭和六三年 六月
- 36 聖護院所蔵『修要秘決伝講筆記』について ―特に衣体分十二通を中心として― 仏教学研究 四五・四六合 平成 二年 三月
- 37 伝教大師の「円機已熟説」再考 ―木内堯央教授に対して― 印度学仏教学研究 三八二―二 平成 二年 三月
- 38 修験教義書に引用された口伝書の考察 ―『修験三十三通記』並びに『修験修要秘決集』を通して― 大倉山論集 二二七 平成 二年 三月
- 39 修験道における「柱源供養法」の思想基盤について ―『修要抄』の「峰中正灌頂柱源供養法大事」の所説をめぐって―

- 40 『修驗修要秘決集』の注釈書として『修要鈔』三巻と『修驗記』十巻とについて
龍谷大学論集 四三六
平成 二年 七月
- 41 玄旨帰命壇の本質と愛色の思想 — 特に玄旨壇の堂内荘嚴を通して—
大倉山論集 二一九
平成 三年 三月
- 42 西方の浄土と己心の浄土
中央仏教学院紀要 一〇〇
平成 五年 二月
- 43 靈空・義瑞「即心念仏」論争考
大倉山論集 三四
平成 五年 二月
- 44 『天地神祇審鎮要記』訳注(六)(共著)
大倉山論集 三五
平成 六年 三月
- 45 最澄と徳一との論争
『日本仏教論—東アジアの仏教思想III—』
平成 七年 九月
- 46 近世における修驗教義の注釈書—『修要鈔』と『修驗記』について—
『近世の精神生活』
平成 八年 三月
- 47 伝教大師最澄の円機思想
『現代への宗教の視点』
平成 八年 七月
- 48 法宝の「一乗仏性」教学の特色(その一) — 『一乗仏性究竟論』の前三巻を中心として—
仏教学研究 五三
平成 九年 二月
- 49 玄旨帰命壇の考察 特に帰命壇灌頂について
大倉山論集 四二
平成 一〇年 三月
- 50 『教行信証』になぜ『法華経』が引用されなかったか 天台教学との関連において
真宗研究会紀要 三〇〇
平成 一〇年 三月
- 51 『天地神祇審鎮要記』訳注(一〇)(共著)
大倉山論集 四二
平成 一〇年 三月
- 52 宗教の歴史観
龍谷教学 三五
平成 一二年 六月
- 53 『日本思想史辞典』『顕戒論』・『最澄』・『三乗一乗論争』の三項目 べりかん社
平成 二三年 六月

- 54 『日本仏教の文献ガイド』 「頭戒論」解説 法蔵館 平成一三年二月
- 55 人はなぜ何の為に生まれてくるのか―日本仏教…特に親鸞聖人の場合― 平和と宗教二〇 平成一三年二月
- 56 中世における源信の伝記と説話性―特に『恵心僧都物語』(または天然本)を中心として― 仏教学研究 五六 平成一四年三月
- 57 比叡山の修行と親鸞聖人 二〇〇一年度 勸学寮例会研究紀要 平成一四年二月
- 58 資料紹介 清算書写『二諦三諦同異抄』(仮題) 龍谷大学論集 四六一号 平成一五年一月
- 59 伝教大師最澄における宗派意識の推移について 日本仏教総合研究 創刊号 平成一五年五月
- 60 安心論題の現代的意味(共著) 龍谷教学 三九 平成一六年四月
- 61 親鸞聖人と比叡山 山口真宗教学 一九 平成一九年四月
- 62 自力から他力へ 京都光華女子大学「真宗文化」一七号 平成二〇年三月
- 63 親鸞聖人と比叡山の修行 九州龍谷短期大学仏教文化第一七号 平成二〇年三月
- 64 親鸞聖人における天台用語の依用について 行信学報 二二 平成二〇年五月
- 65 『往生要集』における「凡夫」の検討 龍谷大学論集 四七四・四七五合併号 平成二〇年七月
- 66 親鸞聖人と『法華経』 龍谷教学 四五 平成二二年三月
- 67 三乗・一乗の権実論争について 『法華仏教研究』一五号 平成二五年四月
- 68 日本仏教における「一三権実論争」 『佛教学レビュー』一三号、金剛大学校仏教 平成二五年六月

(その他)

- ① 聖護院藏書等の整理と研究を担当して(二) 本山修験 七〇 昭和五六年 四月
- ② 韓国仏教管見……日本と韓国の仏像を通して…… 叡山学院研究紀要 四 昭和五六年一〇月
- ③ 龍谷大学所蔵古活字本目録(共著) 龍谷大学 昭和五七年一月
- ④ 写経の教育的意義 児童心理 三八・九 昭和五九年 八月
- ⑤ 園城寺と龍谷大学 園城寺 五一号 昭和六〇年 五月
- ⑥ 「浄土真宗と天台宗との同異」『宗教』昭和六一年九月号所収 教育新潮社 昭和六一年 九月
- ⑦ 経典を学ぶ尊さ 学びの友 一五一一 昭和六二年 七月
- ⑧ 往生要集 古典のこころ(四)所収 月例講話集 第七 大倉精神文化研究所 平成 四年一月
- ⑨ 献体の勧め 学びの友 二一一〇 平成 五年六月
- ⑩ 悲喜ともに慈恩 学びの友 二一一一 平成 五年七月
- ⑪ 「比叡山の浄土教」「大倉山夏季公開講座II」所収 大倉精神文化研究所 平成 五年八月
- ⑫ 大倉邦彦先生の生地と近世の窓口長崎を訪ねて 大倉山論集 三四 平成 五年二月
- ⑬ 浅田文太君へ 学びの友 二二三 平成 六年一月
- ⑭ 「伝教大師最澄の円機思想」「現代への宗教の視点」山田明爾編 所収 永田文昌堂 平成 八年七月
- ⑮ 「仏像に魅せられて」りゅうこくブックス特別号龍谷大学本館改修竣工記念 『真実を学ぶ』所収 龍谷大学宗教部 平成 九年五月
- ⑯ 麦粉の上人 一味 六七〇号 平成 九年二月

- ①7 心を鏡に映してみれば… 学びの友二二六一一 平成一〇年 七月
- ①8 花の心を知る 学びの友二二六一二 平成一〇年 八月
- ①9 道のこのころ……比叡山回峰行によせて 「大倉山講演集VI」所収 大倉精神文化研究所 平成一〇年 八月
- ②0 地獄は存在するか 浄土真宗本願寺派 『宗報』四〇三号 平成一一年一〇月
- ②1 『他力への道』 百華苑 平成一二年 二月
- ②2 『宿縁を慶ぶ』 百華苑 平成一二年 二月
- ②3 『一切衆生悉有仏性』 りゅうこくブックス八九 『ねが心を育てる』所収 龍谷大学宗教部編 平成一二年 三月
- ②4 心に刻むことば(二)所収 「無戒名字の比丘」 大倉精神文化研究所 平成一三年 七月
- ②5 「比叡山時代の宗祖」 平成一四年布教講義會講義録 所収 西本願寺布教講義會事務局 平成一四年 三月
- ②6 『生かされる命を見つめて』 永田文昌堂 平成一五年一〇月
- ②7 親鸞聖人と比叡山の修行 中央仏教学院報 一五号 平成一六年 二月
- ②8 「真宗における戒と僧」 『現代戒想』(多田孝文・末木文美士編)所収 仏教タイムス社 平成一六年 五月
- ②9 『私の歩んだ仏の道』 本願寺出版社 平成一七年一〇月
- ③0 『生かされる命を見つめて』 りゅうこくブックス一一一 『生かされて生きる』所収 龍谷大学宗教部 平成一八年 五月
- ③1 「どうして人を殺してはいけないのですか」 りゅうこくブックス一一八 『昼の星』所収

龍谷大学宗教部

平成二〇年一〇月

- ③② 「親鸞聖人と比叡山の修行」 宗教教育研究会紀要四三回 所収

宗教教育研究会

平成二二年

- ③③ 対談 親鸞聖人の実像にせまる（共著） 「一味」親鸞聖人七五〇回大遠忌記念誌

平成二二年 五月

- ③④ 「仏教を学ぶ人のために」 りゅうこくブックス一二三「真実に生きん」所収

龍谷大学宗教部

平成二三年一月

- ③⑤ 私にとってなぜ浄土真宗なのか 「仏の大悲心を学ぶ」所収

中央仏教学院

平成二三年 二月

- ③⑥ 東日本大震災を機縁として 中西智海先生喜寿記念文書刊行会編

平成二三年二月

- ③⑦ 「無常の上の慶び」 りゅうこくブックス一二六「悲喜の涙」所収

龍谷大学宗教部

平成二五年 三月

- ③⑧ 「生かされて生きる」龍谷大学仏教学科レクチャーシリーズ「仏教と人生の課題」二

探求社

平成二五年一〇月

- ③⑨ 「恩愛の絆を断ちて」『闇を照らす光の言葉』所収 自照社出版

平成二五年一月